

## 【講義2】くずし字について

くめ しおり  
糸 汐里

### 一、はじめに

この講義では、日本古典籍を取り扱う上で必須の教養である「くずし字」について、基礎知識の概説と、初歩的な課題による読解練習を行う。

「くずし字」は、古典籍や古文書などの前近代の資料にみられる文字表記であるが、資料の時代、ジャンル、個人によって崩し方の差異が大きく、その解読の方法も、表記の種類によって異なる。この講義では、「くずし字」習得の第一歩として、「あ」から「ん」までの四十八の変体仮名（平仮名のくずし）を中心に読解練習を行う。加えて、読みたい資料に合わせた辞典・教材類の活用法について解説する。  
(過去5年の担当教員：恋田知子、岡田貴憲、糸汐里)

### 二、くずし字とは

文字資料のうち、楷書かいしよの点画てんかくを省略した手書き文字、そして手書き文字をもとにした版本の文字のことを「くずし字」という。

書道史では点画の省略段階を「草書そうしよ」「行書ぎょうしよ」等に区分するが、歴史学・日本文学・書誌学の研究分野では、それらを包括的に「くずし字」と総称する。なお書道史研究の対象外とされやすい近世文書や古典籍の文字については、明確な区分が存在しないことから、「くずし字」という用語がそのまま一般的に使われている。

「くずし字」は古典籍や古文書などの表記に用いられてきたが、明治時代以降、金属活版印刷の普及や仮名字体の統一に伴って衰退した。その後の例として残るものとしては、速記性・秘匿性を求められる手書きの書簡類や、デザイン性を求められる看板類などがある。

### 三、くずし字の特徴

#### 1) 変体仮名

「くずし字」には、現行の標準字体の仮名に加えて、それとは異なる字体の仮名＝変体仮名が多く用いられる。変体仮名とは、明治33年（1900）の「小学校令施行規則」で採用されなかった仮名で、古典籍や古文書を読む上で必須。それぞれの仮名の元となった漢字を「字母」という。

#### 2) 漢字の省略、異体字・俗字

漢字の「くずし字」は、楷書の点画を省略した「草書」「行書」で書かれるほか、通行の字体とは異なる異体字・俗字をしばしば用いる。点画の省略方法には、一定の法則があり、時代・地域・個人単位で特徴がみられる場合も多い。

#### 3) 連綿体、踊り字

「くずし字」には、二字以上の文字を続けて書く連綿体（つづけ字）や、同じ文字や語句を繰り返すときに用いる「ゝ」「と」「々」「ゝ」「/」「\」（くの字点）などの踊り字とよばれる繰り返し符号が頻出する。

連綿体は一字ずつの区分が困難な場合もあり、「申候」「御座候」などの敬語の定型句は、省略の大きな連綿体にある場合がある。

また踊り字は連綿の中に紛れることも多く、ともに注意が必要。踊り字は、漢字（々と）・平仮名（ゝ）・片仮名（ゝ）と符号が使い分けられているが、資料によっては、その使い分けが曖昧な場合もある。

### 四、くずし字の読み方

#### 1) 漢字と仮名を判別する

崩して書かれている文字が、漢字なのか仮名なのかを判別する。その手がかりとして、変体仮名の<sup>じほ</sup>字母を覚えることから始める。変体仮名の字母は全部で 322 種あるが、その中でも使用頻度の高い字母 150 種（48 音×約 3）をまずは習得する。

## 2) 前後の文章から文字を類推する。

読めない文字があっても、文脈をおさえながら、最適な読みを試みる。

古典籍の場合、読み始めは活字化された本文を参考にしながら読むと、その本の表記の特徴を捉えることができる。

特定の地名や人名などは、判別が難しいため、地名辞典や人名辞典を活用する。

## 3) 清音と濁音の判別

基本的に古典籍の表記では、文字に清濁の別がついていない（稀に濁点などが付いている資料もある）。濁点「ㇿ」や半濁点「°」は文章の前後で判断して、解読する側で読むこととなる。同じ語でも時代によって清濁が異なる場合があるため、時代別の辞書などで確認する。

### 参考文献

#### 【辞典・字典】

- ・ 児玉幸多『くずし字解読辞典 普及版』東京堂出版、1979年 \*起筆順検索
- ◎ 児玉幸多『くずし字用例辞典』東京堂出版、1981年 \*崩し方が段階的に説明
- ・ 笠間影印叢刊刊行会編『字典かな一写本を読む楽しみ一』笠間書院、2003年  
\*古今の名筆
- ・ 江守賢治『草書検索字典』三省堂、2007年
- ・ 法書会編『五體字類 改訂第四版』西東書房、2014年 \*楷・行・草・隸・篆

#### 〈異体字・俗字を読む〉

- ・ 日外アソシエーツ編集部『漢字異体字典』日外アソシエーツ、1994年

#### 〈資料の時代・ジャンルごとに読む〉

- ・ 林英夫監修『新編 古文書解読字典』柏書房、1993年 \*江戸時代～明治初期

- ・波多野幸彦・東京手紙の会『くずし字字典』思文閣出版、2000年  
\*自筆書状の用例。筆者別の用例、巻末に筆者略伝も。

- ・根岸茂夫『江戸版本解読大字典』柏書房、2000年

- ・林英夫監修・柏書房編集部編『入門 古文書小事典』柏書房、2005年

\*戦国期～明治期

- ・かな研究会編『実用変体がな』新典社、1988年

\*カタカナのくずし字。仏書解読に。

〈意味を調べる〉

- ・中村幸彦・岡見正雄・阪倉篤義編『角川古語大辞典』角川書店、1982—1999年
- ・上代語辞典編修委員会編『時代別国語大辞典』上代編、三省堂、1967年
- ・室町時代語辞典編修委員会編『時代別国語大辞典』室町時代編、1985—2001年

### 【教材】

- ・吉田豊『寺子屋式古文書手習い』柏書房、1998年
- ・アダムカバット『妖怪草紙—くずし字入門』柏書房、2001年
- ・吉田豊『寺子屋式古文書女筆入門』柏書房、2004年
- ・吉田豊『寺子屋式続古文書手習い』柏書房、2005年
- ・油井宏子監修・柏書房編集部編『古文書検定 入門編』柏書房、2005年
- ・兼築信行『一週間で読めるくずし字 伊勢物語』淡交社、2006年
- ・兼築信行『一週間で読めるくずし字 古今集・新古今集』淡交社、2006年
- ・飯倉洋一編『アプリで学ぶくずし字 くずし字学習支援アプリ KuLA の使い方』笠間書院、2017年 \*アプリ・Web サイト
- ・油井宏子『くずし字辞典を引いて古文書を読もう』東京堂出版、2019年
- ・「みんなで翻刻」国立歴史民俗博物館・東京大学地震研究所・京都大学古地震研究会  
<https://honkoku.org/>
- ・同志社大学古典教材開発研究センター編『未来を切り拓く古典教材 和本・くずし字でこんな授業ができる すぐに使える問題付き!』文学通信、2023年3月  
>全文ダウンロードサイト

<https://bungaku-report.com/kotekiri.html>

### 【翻刻をさがす】

- ・市古貞次・大曾根章介編『国文学複製翻刻書目総覧』正・続 日本古典文学会、1982—1989年

・国書データベース>国書所在>【複】

<https://kokusho.nijl.ac.jp/?ln=ja>

・国文学・アーカイブズ学論文データベース> 〈翻刻〉 or 〈翻〉 で検索

<https://ronbun.nijl.ac.jp/kokubun>

草 體 圖					五 十 音				
わ <small>マ</small>	ら	や <small>ヤ</small>	ま <small>マ</small>	は <small>ハ</small>	な <small>ナ</small>	た <small>タ</small>	さ <small>サ</small>	か <small>カ</small>	あ <small>ア</small>
わ	り <small>リ</small>	以	み <small>ミ</small>	ひ <small>ヒ</small>	に <small>ニ</small>	ち <small>チ</small>	し <small>シ</small>	ま <small>マ</small>	い
字	る <small>ル</small>	ゆ <small>ユ</small>	む <small>ム</small>	ふ <small>フ</small>	ぬ	つ <small>ツ</small>	す <small>ス</small>	く <small>ク</small>	う
急	れ <small>レ</small>	え	め <small>メ</small>	へ <small>ヘ</small>	ね <small>ネ</small>	て <small>テ</small>	せ <small>セ</small>	け <small>ケ</small>	に <small>ニ</small>
を <small>ヲ</small>	ろ <small>ロ</small>	よ <small>ヨ</small>	も <small>モ</small>	ほ <small>ホ</small>	の <small>ノ</small>	と <small>ト</small>	ろ <small>ロ</small>	こ <small>コ</small>	か <small>カ</small>

問題 1

次の



の字母を考えてみましょう。



草體圖					五十字音					
わ <small>マ</small>	ら	や <small>ヤ</small>	ま <small>マ</small>	は <small>ハ</small>	な <small>ナ</small>	た <small>タ</small>	さ <small>サ</small>	か <small>カ</small>	あ <small>ア</small>	阿
わ	り <small>リ</small>	以	み <small>ミ</small>	ひ <small>ヒ</small>	に <small>ニ</small>	ち <small>チ</small>	し <small>シ</small>	ま <small>マ</small>	い	
亨	る <small>ル</small>	ゆ <small>ユ</small>	む <small>ム</small>	ふ <small>フ</small>	ぬ	つ <small>ツ</small>	す <small>ス</small>	く <small>ク</small>	う	
急	れ <small>レ</small>	え	め <small>メ</small>	へ <small>ヘ</small>	ね <small>ネ</small>	て <small>テ</small>	せ <small>セ</small>	け <small>ケ</small>	に <small>ニ</small>	江
を <small>ヲ</small>	ろ <small>ロ</small>	よ <small>ヨ</small>	も <small>モ</small>	ほ <small>ホ</small>	の <small>ノ</small>	ぞ <small>ゾ</small>	ろ <small>ロ</small>	こ <small>コ</small>	に <small>ニ</small>	於

問題 1

次の



の字母を考えてみましょう。

問題 2

次の□の変体仮名を読んでみましょう。

此兒は、新しき、紙鳶を持ってり、○彼□糸を持ちて、

走るを見よ、○彼は紙鳶を高く飛ばせんと思ふ

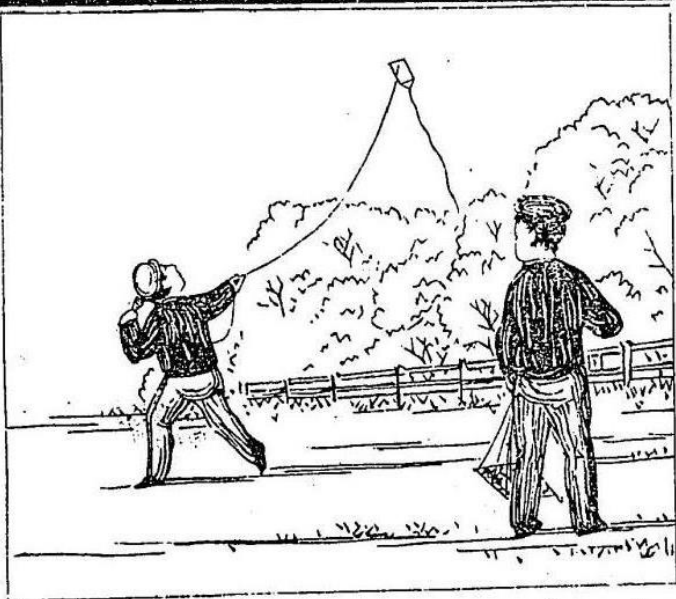
□り、○汝も、紙鳶の颺る

を欲□る□、○紙鳶の颺

り□るときは、能く心を

用□よ、○糸の樹□、纏ふ

ことあるべし



此兒ハ、新しキ、紙鳶を持ってり

○其舊き帽ハ、破れとるゆゑ、新しき帽を買得とる

走るを見よ、○彼ハ糸を持ちて、  
を高く飛ばせんと思ふ  
あり、○汝も、紙鳶の颺る  
を、欲する、○紙鳶の、颺る  
りとるときは、能く心を  
用およ、○糸の樹に、纏ふ  
ことあるべし  
彼ハ、新しき帽をもてり、

小学讀本 卷一

○六



問題 2

次の□の変体仮名を読んでみましょう。

此兒は、新しき、紙鳶を持ってり、○彼が糸を持ちて、

走るを見よ、○彼は紙鳶を高く飛ばせんと思ふ

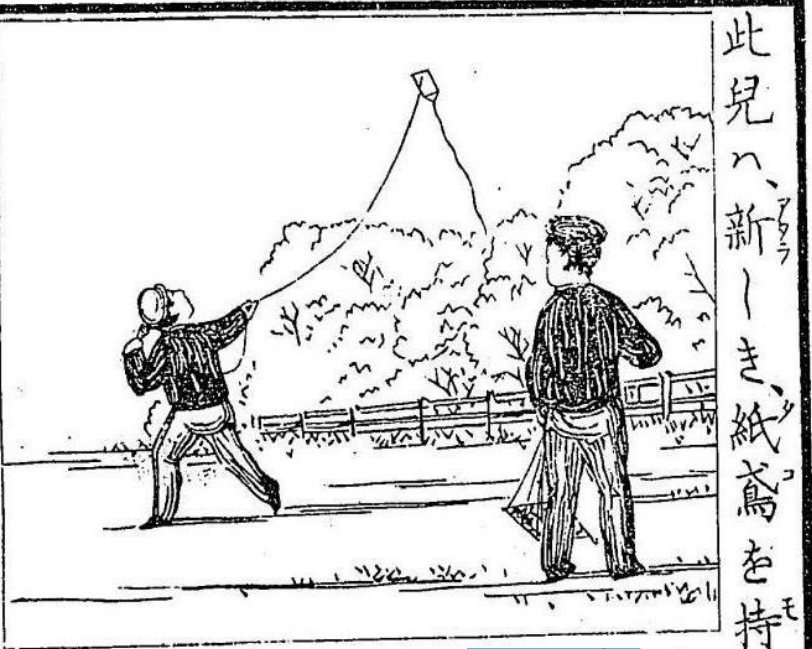
なり、○汝も、紙鳶の颯る

を欲するか、○紙鳶の颯

りたるときは、能く心を

用ゐよ、○糸の樹に、纏ふ

ことあるべし



此兒ハ、新しキ、紙鳶を持ってり、○彼が糸を持ちて、

走るを見よ、○彼の紙鳶

高く飛ばせんと思ふ

を、多そる、○紙鳶の颯る

り、○糸の樹に、纏ふ

用ゐよ、○紙鳶の颯

こ、○紙鳶の颯

彼ハ、新しキ、紙鳶を持ってり、

○紙鳶の颯

○紙鳶の颯

○紙鳶の颯

小畑廣木 卷一

○六

問題3

次の□の変体仮名を読んでみましょう。

此猫を見よ、恣□、寢床の上□、座せり、これよき猫

□□あら□、○汝□猫

を追ひ退くることを、

得べしや、○否、手を出

さ□、必猫□、噛まるべ

し、○猫□、他所□、追遣

るべき□、又此所□、留

め置べき□、○猫□、此

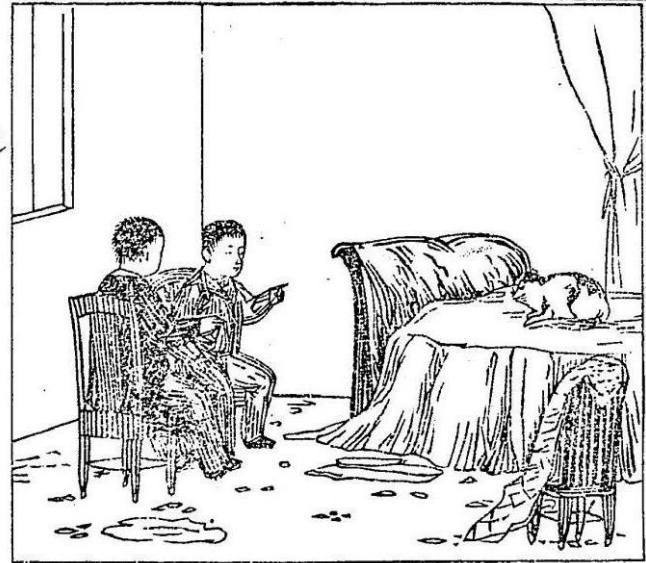
室の中□、留め置と雖

寢床の上□、上ること

を□許□べ□ら□、○汝□、此猫の、鼠を捕るを、見

りや、○見□り、夜間□、鼠を捕ふること、屢□り、

此猫を見よ恣<sup>ホビマ</sup>、臥床<sup>ネドコ</sup>の上<sup>ウ</sup>、座<sup>ザ</sup>せりこれよき猫



を<sup>ユ</sup>べ、許<sup>ユ</sup>をべ<sup>ク</sup>ら<sup>ビ</sup>、○汝<sup>ニ</sup>、此猫<sup>ネ</sup>の鼠<sup>ネズミ</sup>を捕<sup>ト</sup>るを見<sup>ミ</sup>

とりや、○見<sup>ミ</sup>とり夜間<sup>ヤカ</sup>ふ鼠<sup>ネズミ</sup>を捕<sup>ト</sup>ふること、屢<sup>シバク</sup>あり、

又<sup>マタ</sup>あり、○汝<sup>ニ</sup>、猫<sup>ネ</sup>を  
追<sup>オ</sup>ひ退<sup>ヒ</sup>くることを  
得<sup>エ</sup>べしや、○否<sup>イナ</sup>、手<sup>テ</sup>を出<sup>デ</sup>  
さ<sup>カ</sup>べ、必<sup>カナラ</sup>猫<sup>ネ</sup>、噛<sup>カ</sup>まるべ  
し、○猫<sup>ネ</sup>、他<sup>ホ</sup>所<sup>トコロ</sup>、追<sup>オ</sup>遣<sup>ヒ</sup>  
る<sup>ク</sup>べき、又<sup>マタ</sup>此<sup>コノ</sup>所<sup>トコロ</sup>、留<sup>ト</sup>  
め置<sup>オク</sup>べき、○猫<sup>ネ</sup>、此<sup>コノ</sup>  
室<sup>シム</sup>の中<sup>ナカ</sup>、留<sup>ト</sup>め置<sup>オク</sup>と雖<sup>モ</sup>  
臥<sup>ネ</sup>床<sup>ドコ</sup>の上<sup>ウ</sup>、上<sup>アガ</sup>ること



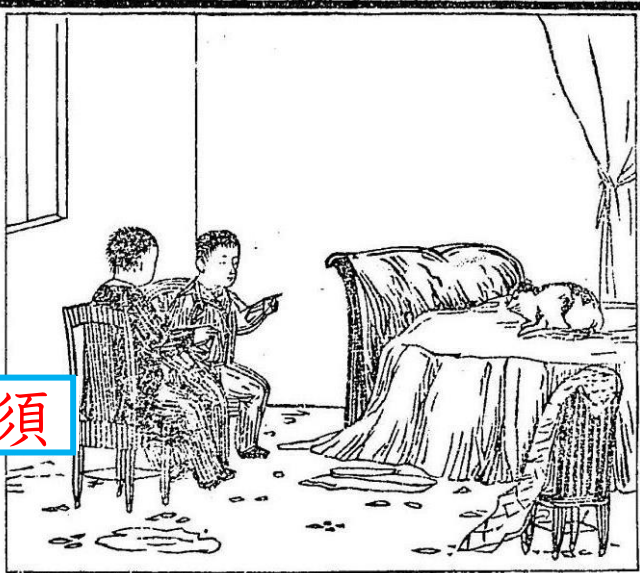
問題3

次の□の変体仮名を読んでみましょう。

此猫を見よ、恣に、寢床の上に、座せり、これよき猫にはあらず、○汝は猫を追ひ退くることを、得べしや、○否、手を出さば、必猫に、噛まるべし、○猫は、他所に、追遣るべきか、又此所に、留め置べきか、○猫は、此室の中に、留め置と雖寢床の上に、上ること

をば許すべからず、○汝は、此猫の、鼠を捕るを、見たりや、○見たり、夜間に、鼠を捕ふること、屢なり、

此猫を見よ、次、爾、卧床の上、者、せりこれよき猫



多、とりや、○見たり夜間、鼠を捕ふること、屢あり、

をば、許すべからず、○汝は、此猫の鼠を捕ふこと、屢あり、

須、

可、

奈、見



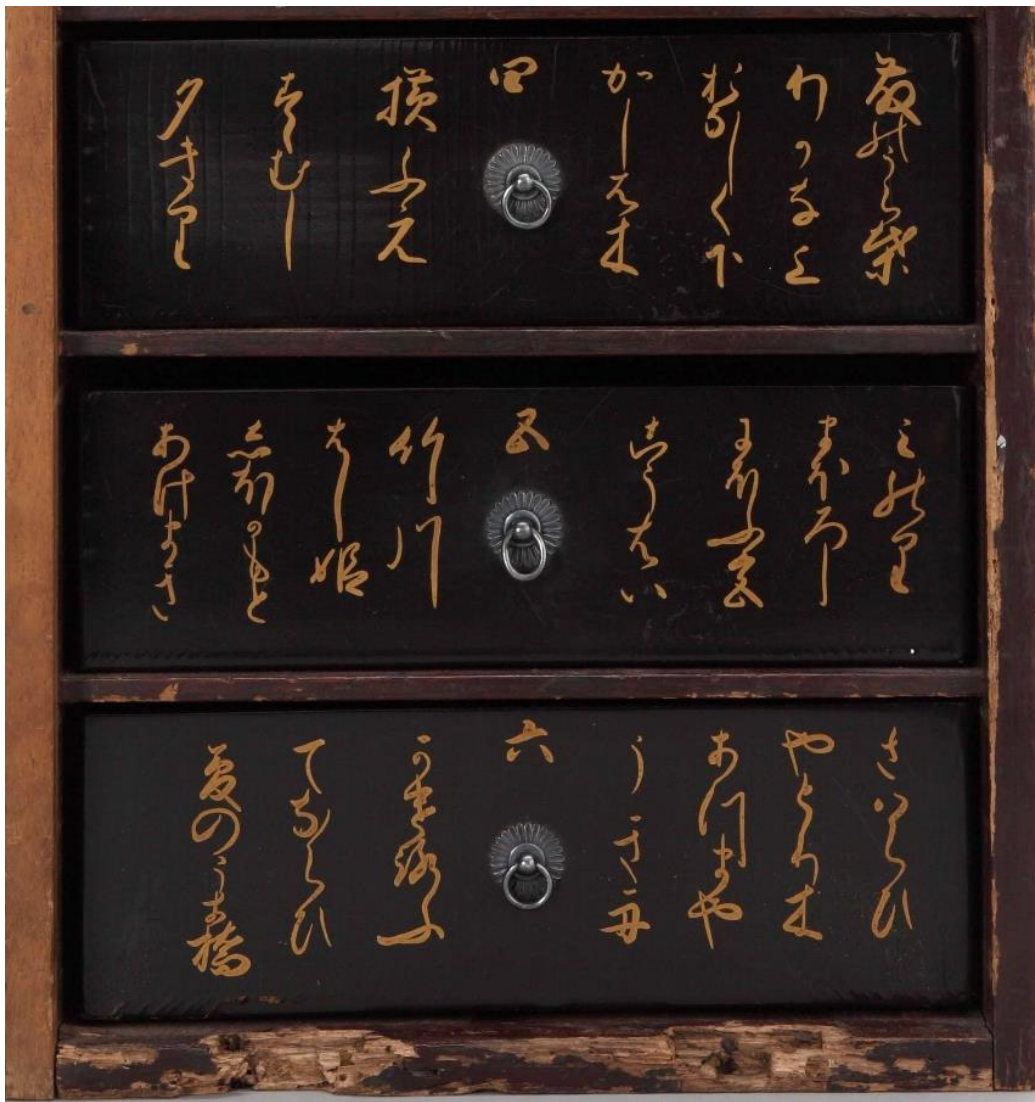


花のえん 紅葉賀 末摘花 わか紫 王可 夕かほ 可本 うつ蟬 はき木 者 かりつほ 里本

うす雲 松かせ 可勢 魚あはせ せきや よもきふ 二 みをつくし あかし 可之 すま 春 花ちる里 さか木 可 あふひ



梅か枝 可 まき柱 者可満 ふちはかま みゆき 野わき 王 かつり火 里 三 とこ夏 ほたる 本多累 こてふ 者年 はつね 玉かつら 可 をとめ 免 朝かほ 可本



夕	<input type="checkbox"/>	横	四	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	藤
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>		木	<input type="checkbox"/>	上	<input type="checkbox"/>
					下		葉

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	竹	五	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	川		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	姫		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	宮	<input type="checkbox"/>	
		<input type="checkbox"/>						

夢	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	六	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		舟	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	木	<input type="checkbox"/>
橋							

国文学研究資料館蔵『源氏物語』（サ4-74）  
<https://kokusho.nijl.ac.jp/biblio/200010455/>  
<https://doi.org/10.20730/200010455>

能

藤のうら葉

可奈

わかな上

於奈

おなしく下

者

かしは木

四

横ふえ

春

すゝむし

里

夕きり

三能里

みのり

本

まほろし

爾本

にほふ宮

古者

こうはい

五

竹川

者

はし姫

志本可

しほかもと※

あけまき

※誤写？

八

さはらひ

やとり木

川

あつまや

うき舟

六

可遣路

かけろふ

奈

てならひ

支

夢のうき橋

問題 5

次の変体仮名を読んでみましょう。

昔男有	<input type="checkbox"/>	り	<input type="checkbox"/>	男身	<input type="checkbox"/>	えうなき物	<input type="checkbox"/>	思	<input type="checkbox"/>				
<input type="checkbox"/>	して京	<input type="checkbox"/>	あら	<input type="checkbox"/>	あ	<input type="checkbox"/>	ま	<input type="checkbox"/>	か	<input type="checkbox"/>	に	<input type="checkbox"/>	
へ	<input type="checkbox"/>	くにも	とめに	<input type="checkbox"/>	と	<input type="checkbox"/>	てゆ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	も	<input type="checkbox"/>	と	<input type="checkbox"/>
とも	<input type="checkbox"/>	る人	<input type="checkbox"/>	と	<input type="checkbox"/>	た	<input type="checkbox"/>	ていき	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
みち	<input type="checkbox"/>	ひとも	<input type="checkbox"/>	くて	ま	ひ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	かはの	く	や	<input type="checkbox"/>	し	とい	ふ	所	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ぬ	<input type="checkbox"/>	こ	や	<input type="checkbox"/>	は	し	とい	ひ	<input type="checkbox"/>	は	水	行	河
くも	て	な	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	を	<input type="checkbox"/>	つ	<input type="checkbox"/>	た	せ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
て	な	<input type="checkbox"/>	や	<input type="checkbox"/>	し	と	<input type="checkbox"/>	ひ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	さ	<input type="checkbox"/>	の
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

国文学研究資料館蔵『伊勢物語』 (98-406)  
<https://kokusho.nijl.ac.jp/biblio/200024817/>  
<https://doi.org/10.20730/200024817>

①

9 8 7 6 5 4 3 2 1

育男のりりうは男身哉えうなき物よそり  
あして京よ人あし志あはれかこにけせ  
兼くにもとめにしとてゆふりわもとらわ  
とも也はう人わらぬたわ志ていさふ里  
みら志建ぬひともゆくまもひつ記ふわ  
見かは乃とまや流りといふ所小ひらわ  
ぬうこ城や流りといひは教を水行河此  
ともてな所を志を冠つま大せぬよらわ  
てなせや流りといひは教を水行河此



介 曾能 越 爾 日

昔男有けりその男身をえうなき物に思ひ

奈 爾八 志 徒 能 多 須無  
なして京にはあらしあつまのかたにすむ

幾  
へきくにもとめにとてゆきけりもとより

登須 日 利婦 利志 介里  
ともとする人ひとりふたりしていきけり

志連流 那 川起介利  
みちしれるひともなくてまとひつきけり

見 爾 徒八 爾以多利  
みかはこのくにやつはしといふ所にいたり

曾 越 徒 介類者 能  
ぬそこをやつはしといひけるは水行河の

くもてなれははしをやつわたせるにより

無 徒八 以 介類曾能 八 本  
てなむやつはしといひけるそのさはのほ

①

1 育男のりりう姑男力越えうなき物よとわ  
 2 糸一て京よ人あし志あけよれかこにけせ  
 3 糸一くにもとめによとゆとらわもとらわ  
 4 とも也にう人わらぬたわ志てりさふ望  
 5 みる志連ぬひともゆとえまよひつたふわ  
 6 見かは乃とよや流りといふ所小ひとわ  
 7 ぬうこ城や流りといひは流る水行河此  
 8 ともてな物え志を履つまたせぬよとわ  
 9 てなむや流りといひは流る水行河此

18 17 16 15 14 13 12 11 10

とわね本流うけにおわのそく建つひん  
 ちあろけきいはあきほれたつとたも  
 とすたもあうれをんそあり人のいん  
 きほいたとソソつち一城くのうえにす  
 なるの心をよめとソソひり村のうら  
 かに衣きほくあれも一つまきあひ  
 ちれくきぬるさひ地一抱えふ  
 ちよりあひり水をみぬ人かまソソひのうん小  
 深むやしとつとひりうら

②

涙	□		□	□	□	□	□	□	□
□	□		□	□	□	□	□	□	□
□	□	□	□	□	□	□	□	□	木
□	□	く	衣	□	□	□	□	□	□
□	□	く	心	□	□	□	□	□	□
□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
□	□	□	□	□	□	見	□	□	□
□	人	□	□	□	□	□	□	□	□
□	□	□	□	□	□	□	人	□	□
□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
□	思	□	□	□	□	□	□	□	□
□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
□	□	□	□	□	□	□	□	□	□

国文学研究資料館蔵『伊勢物語』(98-406)  
<https://kokusho.nijl.ac.jp/biblio/200024817/>  
<https://doi.org/10.20730/200024817>



能濃可 利 可連以

とりの木のかけにおりみてかれいひくひ  
氣利曾能 八爾 徒者以於 路

けりそのさはにかきつはたいとおもしろ  
起多利曾 者可

くさきたりそれを見てある人のいはくか  
徒八 越 可見寸

きつはたといふいつもしをくのかみにす  
遍多 介禮八与

へてたひの心をよめといひければよめる  
徒奈爾 志連八

から衣きつゝなれにしつましあれば  
者類 多越 楚

はるくきぬるたひをしそ思ふ  
登 利介盤三那 連 爾

とよめりければみな人かれいひのうへに  
於登 本 耳氣利

涙おとしてほとひにけり

②

18 17 16 15 14 13 12 11 10

とわね本流うけにおりのえうまはつひくひ  
あまろけさいはあきほまたつとたもつ  
とさたもあうれをえそあひ人のいそく  
きほいたとつひつちてくくのえにす  
るそつひの心をよめとつひはつた  
か衣まほくあれすつま  
えおくきぬるつひ地  
たよりあつたをみぬ人かまつひのうへに  
涙おとしてほとひにけり

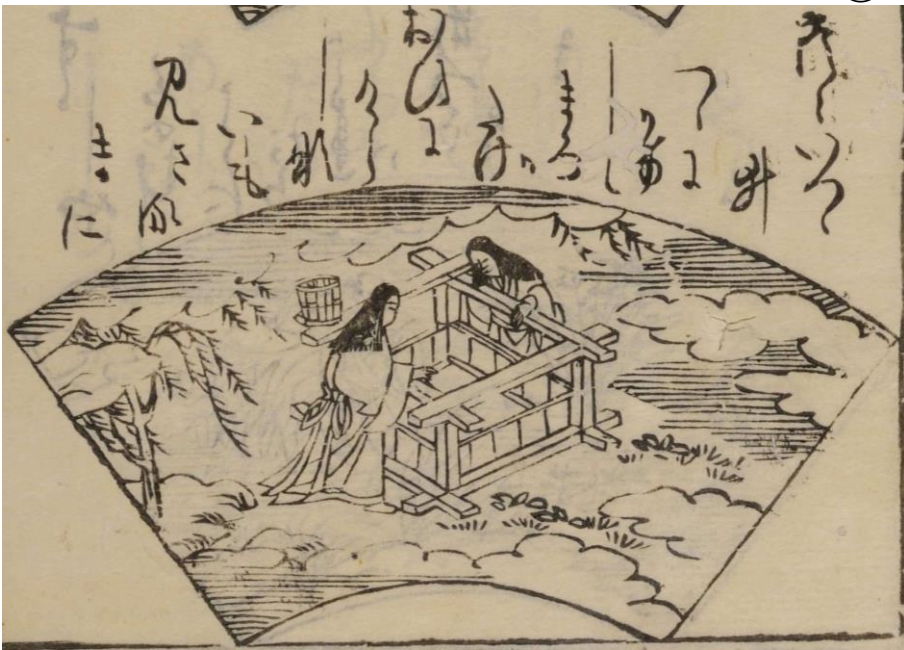
問題 6

次の文字を読んでみましょう。

①



②



①  
 衣

**散書**（ちらしがき）  
 手紙・色紙・短冊などに文字を書く書き方の一種。

②  
 つ  
 っ

井

国文学研究資料館蔵『扇の草紙』（ナ4-416）  
<https://kokusho.nijl.ac.jp/biblio/200006670/>  
<https://doi.org/10.20730/200006670>



①



②



① から衣

きつゝ

連

なれ

爾

にし

徒

つまし

あれ

は八

者流

はる

き

ぬる

多

たひ

曾

をしそ

おもふ

② 徒  
つゝいつゝ

井

つゝに 爾

かけ 可希

し

たけ 多 可 しろ

たけ 多

爾

おひに

介

けら

那

しな いら

流

見さる

ま

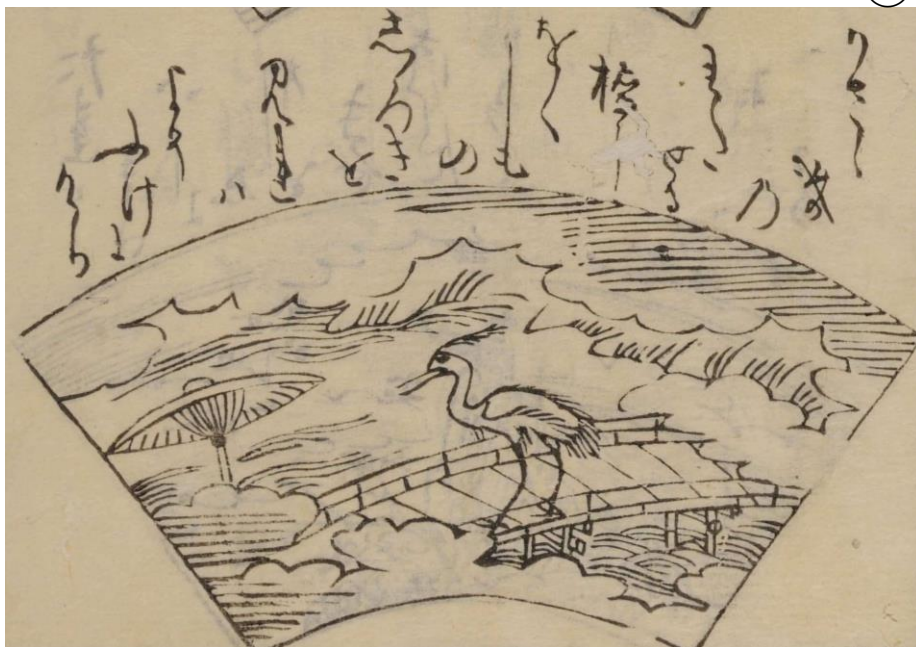
に







④



③

可<sup>③</sup>かさゝ  
 幾乃きのわた<sup>王多</sup>わた<sup>王多</sup>を<sup>を</sup>き<sup>を</sup>し<sup>し</sup>ろ<sup>し</sup>志<sup>志</sup>を<sup>を</sup>く<sup>く</sup>橋<sup>橋</sup>に<sup>に</sup>耳<sup>耳</sup>せる<sup>せる</sup>  
 連<sup>連</sup>見<sup>見</sup>れ<sup>れ</sup>八<sup>八</sup>は<sup>は</sup>曾<sup>曾</sup>は<sup>は</sup>よ<sup>よ</sup>そ<sup>そ</sup>ふ<sup>ふ</sup>け<sup>け</sup>  
 爾<sup>爾</sup>に<sup>に</sup>介<sup>介</sup>ける<sup>ける</sup>

④  
 者<sup>者</sup>あ<sup>あ</sup>ふ<sup>ふ</sup>時<sup>時</sup>は<sup>は</sup>  
 可<sup>可</sup>多<sup>多</sup>か<sup>か</sup>た<sup>た</sup>り<sup>り</sup>  
 徒<sup>徒</sup>須<sup>須</sup>つ<sup>つ</sup>く<sup>く</sup>す<sup>す</sup>  
 と  
 於<sup>於</sup>お<sup>お</sup>も<sup>も</sup>へ<sup>へ</sup>  
 共<sup>共</sup>  
 爾<sup>爾</sup>に<sup>に</sup>別<sup>別</sup>  
 連<sup>連</sup>な<sup>な</sup>れ<sup>れ</sup>  
 八<sup>八</sup>は<sup>は</sup>流<sup>流</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>る<sup>る</sup>  
 言<sup>言</sup>葉<sup>葉</sup>

言葉  
 琴の端